

資料提供	
平成26年10月30日	
担当 (担当者)	水産試験場 (志村・山田)
電話	0859-45-4500

平成26年漁期 ズワイガニ漁の見通し

解禁直後（鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖）

松葉がに…前年を下回り、平年並み。

若松葉…前年・平年を下回る。

親がに（雌）…前年・平年を下回る。

漁期全般：漁獲量は前年を下回る。

解禁直後の見通しの根拠となった情報

第一鳥取丸による調査結果 10月2日～29日にかけて、山陰沖の水深183m～413mの海域において、合計27の調査点で着底トロールによる漁期前調査を行いました（図1）。調査海域内における漁獲対象となるズワイガニの推定資源尾数（単位＝万尾）は表1のようになりました。

表1 調査海域におけるズワイガニの資源尾数（単位＝万尾）

区分	2011年	2012年	2013年	2014年	前年比	平年比（過去3年）
松葉がに（甲幅9.5cm以上）	28	39	63	53	84%	123%
若松葉（甲幅10.5cm以上）	263	176	189	134	71%	64%
親がに（くろこ）	272	249	211	175	83%	72%

松葉がに：隠岐北西沖で増加したものの出雲沖で減少し、資源量は前年比84%となりました（表1、図2左）。甲幅10～12cm台の小～中型個体を主体に13cm以上の大型個体も漁獲されました（図3）。

若松葉：隠岐北西沖で大幅に減少し、資源量は前年比71%となりました（表1、図2中央）。甲幅10～12cm台の小～中型個体が主体となりました（図3）。

親がに：出雲沖で減少し、資源量は前年比83%となりました（表1、図2右）。甲幅7～8cm台の小～中型個体が主体となりました（図3）。

漁期全般の見通しの根拠となった情報

- 鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移** 本県のズワイガニ漁獲量は2004年（2,187トン）まで増加しましたが、その後は減少～横ばいで推移しています（図4）。2013年の漁獲量は松葉がに301トン、若松葉111トン、親がに522トン、合計934トンで、前年（1,101トン）及び平年（過去3年平均1,141トン）を下回りました。
- 水研調査（調査月：5-6月）**：（独）水産総合研究センターは、日本海A海域（富山県以西）における2014年のズワイガニ資源量について2013年より少なく推定しています（図5-6）。
- まとめ** 第一鳥取丸の調査結果から調査対象海域では雌雄ともに資源は減少しています。また、長期的な漁獲量の変動と広域の試験調査結果を考慮すると大幅な資源回復は期待できないことから、漁期全般の漁獲量は前年を下回る見通しです。

今後の資源状況：雌雄ともに6cm程度の未成体ガニが多くこれらのカニが順調に成長すれば2年後から漁獲量が上向くものと考えられますので、未成体ガニが多量に入網する海域での操業自粛や再放流に努め、ズワイガニ漁期外には改良網を使用して資源保護に努める必要があります。

ホームページ 本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=101110>

図1 試験操業位置（図中黒丸が操業位置）

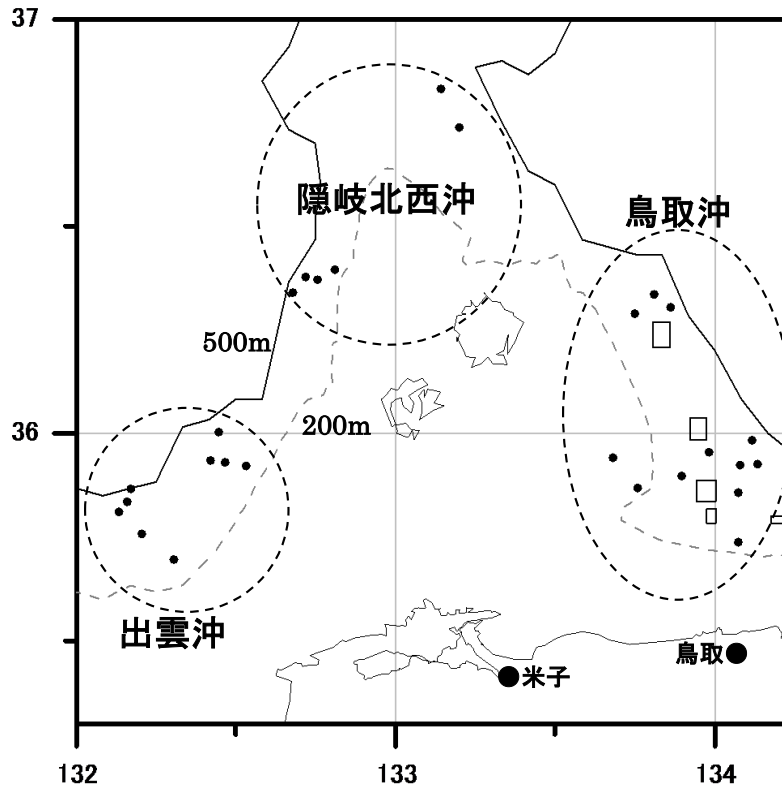


図2 年別海域別の資源尾数（2011-2014年）

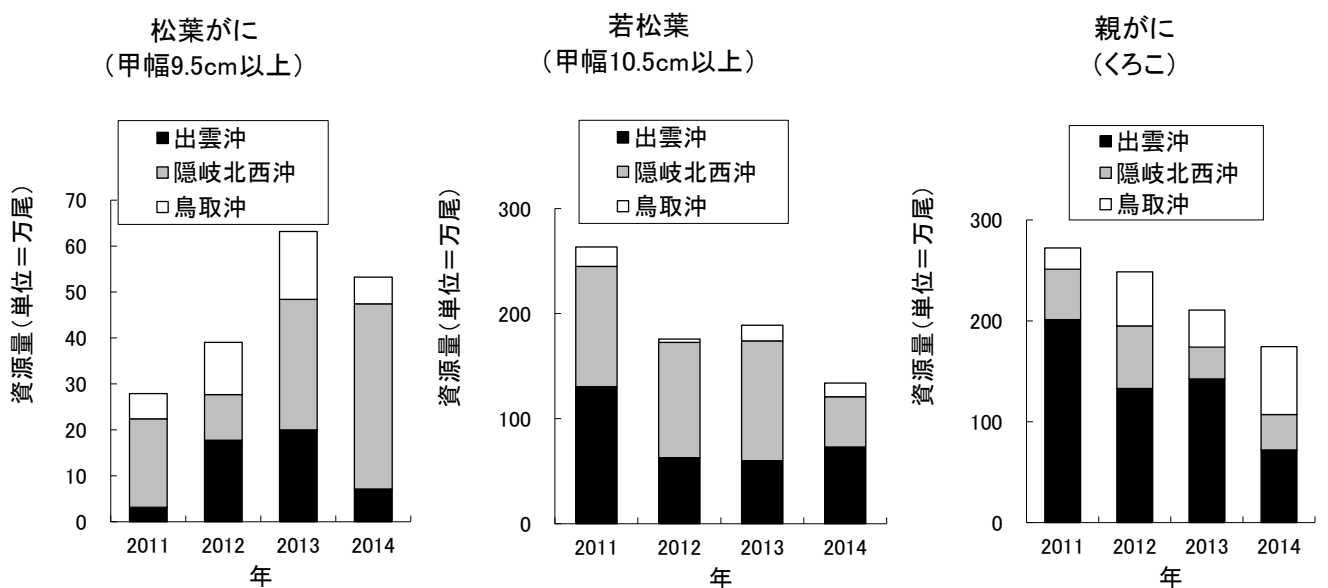


図3 トロール網による調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2011-2014年)
資源尾数の単位は万尾

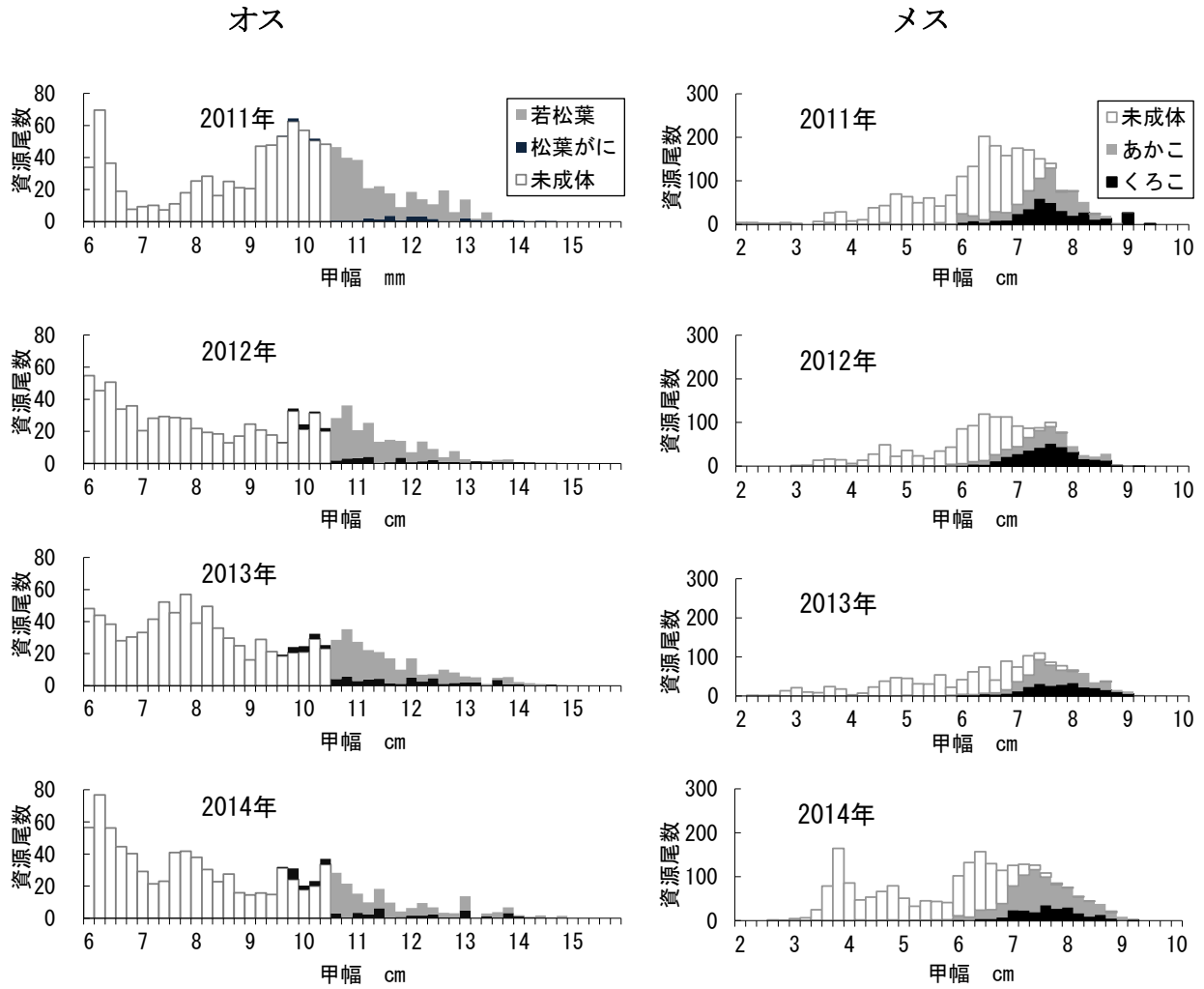


図4 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量 (1988~2013年：漁期年)

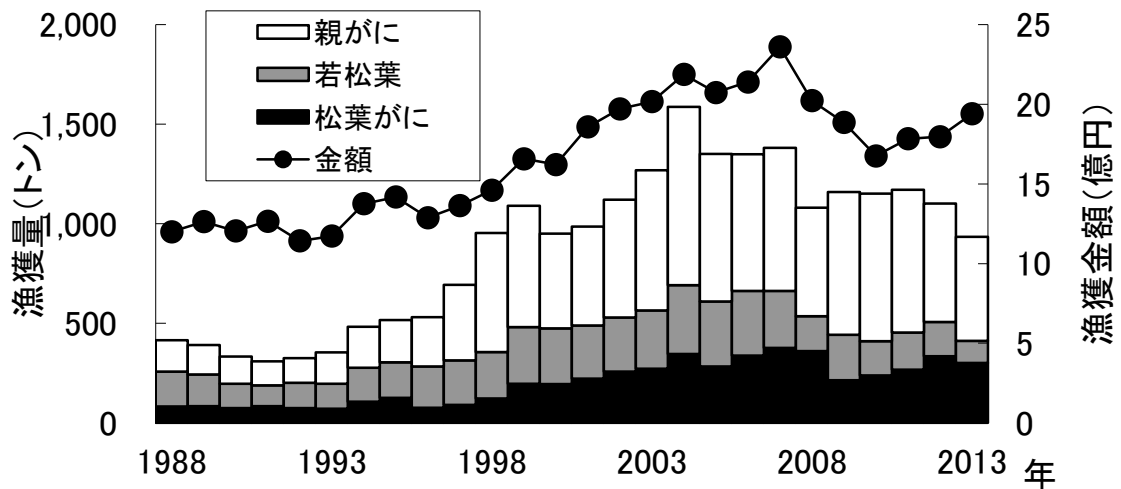


図5 A海域（富山県以西）におけるズワイガニ雄の資源量（縦軸の単位は百トン）
水産総合研究センター 日本海区水産研究所資料

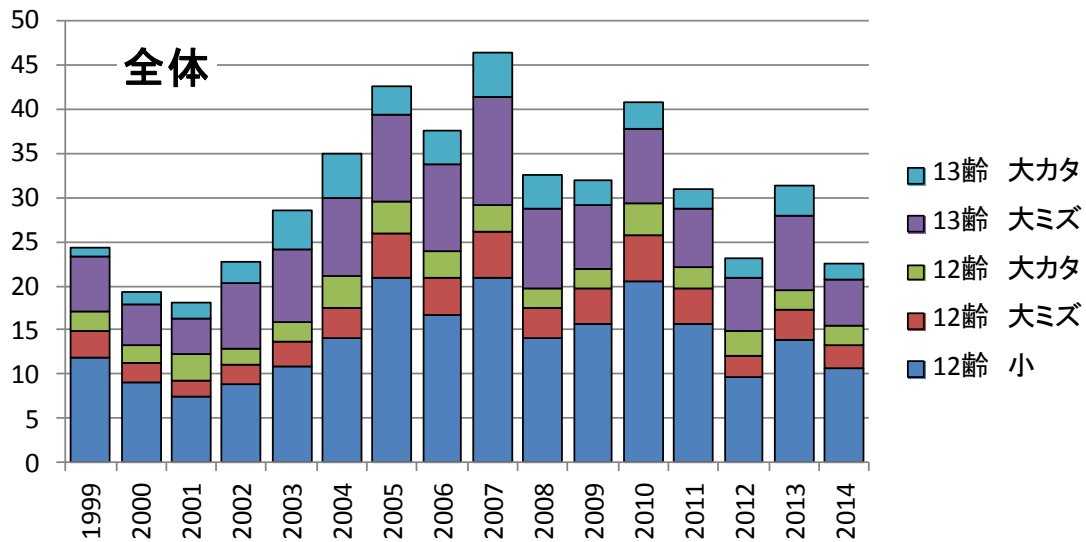


図6 A海域（富山県以西）におけるズワイガニ雌の資源量（縦軸の単位は百トン）
水産総合研究センター 日本海区水産研究所資料

